

平成 23 年度 学校保健統計調査結果報告（広島県分）の概要について

平成 24 年 4 月 20 日
統 計 課

1 調査の概要

この調査は、幼児、児童及び生徒の発育状態及び健康状態を明らかにすることを目的に文部科学省が昭和 23 年から毎年実施しているものです。

この速報は、広島県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、満 5 歳から満 17 歳までの幼児、児童及び生徒の一部を抽出し、発育状態調査と健康状態調査の 2 調査について、平成 23 年度の基本的事項をまとめたものです。

※なお、東日本大震災の被害が甚大であった岩手県、宮城県及び福島県は調査対象となっていないが、本調査は抽出調査であり、被災県を除いても全国値には統計的に有意な差は生じない

2 調査結果の主な特徴

- (1) 身長（平均値）は、男子の 7 歳、8 歳、12 歳の各年齢で調査実施以来の最高値となっています。
- (2) 疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても、「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高くなっています。
- (3) 「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園を除く学校段階において前年度を下回っており、全国との比較では、いずれの学校段階においても全国の割合を下回っています。

3 調査結果の概要

(1) 発育状況調査

ア 身長

身長（平均値）は、前年度比較において、男子は 5 歳、7 歳、8 歳、10 歳、12 歳、13 歳、15 歳、16 歳について増加し、また、女子については、9 歳、14 歳、16 歳、17 歳のそれぞれについて増加しました。

また、男子の 7 歳、8 歳及び 12 歳で調査実施以来の最高値となっています。

さらに、父母世代である 30 年前の昭和 56 年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は 12 歳で 2.9cm、女子は 9 歳及び 11 歳で 1.7cm、それぞれ父母の世代より高くなっています。（表 1）

表 1 年齢別身長の平均値

（単位：cm）

校種・年齢	男 子						女 子					
	平成 23 年度			昭和 56 年度			平成 23 年度			昭和 56 年度		
	A 広島県	前年差	全 国	B 広島県	(A-B)	A 広島県	前年差	全 国	B 広島県	(A-B)		
幼稚園	5 歳	110.5	0.1	110.5	109.9	0.6	109.5	△ 0.3	109.5	109.2	0.3	
	6 歳	116.0	△ 0.5	116.6	115.6	0.4	115.1	△ 0.3	115.6	114.6	0.5	
小学校	7 歳	※122.5	0.6	122.6	120.7	1.8	121.2	△ 0.5	121.6	120.4	0.8	
	8 歳	※128.1	0.6	128.2	126.6	1.5	127.0	△ 0.2	127.4	125.5	1.5	
	9 歳	132.7	△ 0.7	133.5	131.7	1.0	132.9	0.2	133.5	131.2	1.7	
	10 歳	138.7	0.3	138.8	136.7	2.0	139.6	△ 0.1	140.2	138.3	1.3	
	11 歳	144.2	△ 0.3	145.0	142.5	1.7	146.1	△ 0.8	146.7	144.4	1.7	
中学校	12 歳	※152.2	0.3	152.3	149.3	2.9	151.2	△ 0.1	151.9	150.1	1.1	
	13 歳	158.5	0.1	159.6	157.2	1.3	154.2	△ 0.2	155.0	154.0	0.2	
	14 歳	164.4	△ 0.3	165.1	163.0	1.4	156.0	0.4	156.6	155.4	0.6	
高等学校	15 歳	167.5	0.4	168.3	167.0	0.5	156.7	0.0	157.1	156.8	△ 0.1	
	16 歳	169.8	0.8	169.9	168.4	1.4	157.3	0.5	157.6	156.9	0.4	
	17 歳	169.6	△ 0.3	170.7	169.1	0.5	157.4	0.1	158.0	156.9	0.5	

(注) 1 ■ は前年度より増加した値を示す。

(注) 2 ※ は調査実施以来の最高値を示す。

イ 体 重

体重(平均値)は、前年度比較において、男子は5歳、7歳、8歳、12歳、13歳、16歳、17歳のそれぞれについて増加し、また、女子は、5歳、9歳、15歳、16歳のそれぞれについて増加しました。

また、父母世代である30年前の昭和56年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は12歳で3.7kg、女子は11歳で2.1kg、それぞれ父母の世代より増加しています。(表2)

表2 年齢別体重の平均値

(単位: kg)

校種・年齢	男 子					女 子					
	平成23年度			昭和56年度		平成23年度			昭和56年度		
	A		全 国	B		A		全 国	B		
広島県	前年差	広島県		(A-B)	広島県	前年差	広島県		(A-B)		
幼稚園	5歳	19.0	0.3	18.9	18.6	0.4	18.6	0.1	18.5	18.3	0.3
小学校	6歳	21.1	△ 0.3	21.3	20.6	0.5	20.6	△ 0.4	20.8	20.0	0.6
	7歳	24.0	0.2	24.0	22.9	1.1	23.3	△ 0.4	23.4	22.3	1.0
	8歳	27.1	0.4	27.0	25.7	1.4	26.2	△ 0.3	26.4	24.7	1.5
	9歳	29.8	△ 0.6	30.3	28.5	1.3	29.7	0.2	29.8	28.0	1.7
	10歳	33.9	0.0	33.8	31.7	2.2	33.5	△ 0.5	34.0	32.4	1.1
中学校	11歳	37.4	△ 0.7	38.0	35.5	1.9	38.4	△ 0.2	38.8	36.3	2.1
	12歳	44.2	0.3	43.8	40.5	3.7	43.7	△ 0.2	43.6	42.0	1.7
	13歳	48.4	0.2	49.0	45.9	2.5	46.6	△ 0.4	47.1	46.2	0.4
高等学校	14歳	54.0	△ 0.8	54.2	51.6	2.4	49.6	△ 0.3	49.9	49.2	0.4
	15歳	57.9	△ 0.5	59.4	55.3	2.6	51.6	0.4	51.4	51.2	0.4
	16歳	60.6	0.2	61.3	58.2	2.4	52.1	0.2	52.4	52.3	△ 0.2
	17歳	62.3	0.7	63.1	59.3	3.0	52.4	△ 0.3	52.8	52.0	0.4

(注) 1 は前年度より増加した値を示す。

(注) 2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

ウ 座 高

座高(平均値)は、前年度比較において、男子は7歳、8歳、12歳、13歳、16歳のそれぞれについて増加し、また、女子は、12歳、14歳～16歳のそれぞれについて増加した。

また、男子は12歳と16歳で、女子は14～17歳でそれぞれ調査実施以来の最高値となっています。

さらに、父母世代である30年前の昭和56年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は12歳で1.8cm、女子は11歳で1.0cm、それぞれ父母の世代より高くなっています。(表3)

表3 年齢別座高の平均値

(単位: cm)

校種・年齢	男 子					女 子					
	平成23年度			昭和56年度		平成23年度			昭和56年度		
	A		全 国	B		A		全 国	B		
広島県	前年差	広島県		(A-B)	広島県	前年差	広島県		(A-B)		
幼稚園	5歳	61.9	0.0	62.0	62.2	△ 0.3	61.3	△ 0.3	61.4	61.8	△ 0.5
小学校	6歳	64.7	△ 0.1	64.9	64.9	△ 0.2	64.2	△ 0.2	64.4	64.2	0.0
	7歳	67.7	0.2	67.7	67.1	0.6	67.1	△ 0.4	67.2	66.8	0.3
	8歳	70.3	0.3	70.2	69.8	0.5	69.8	△ 0.2	69.9	69.2	0.6
	9歳	72.4	△ 0.2	72.6	72.0	0.4	72.5	0.0	72.7	71.9	0.6
	10歳	75.0	0.0	74.9	74.1	0.9	75.7	△ 0.3	75.9	75.1	0.6
	11歳	77.3	△ 0.3	77.6	76.6	0.7	79.1	△ 0.4	79.2	78.1	1.0
中学校	12歳	※81.5	0.5	81.2	79.7	1.8	82.2	0.1	82.1	81.5	0.7
	13歳	84.4	0.1	84.9	83.5	0.9	83.8	0.0	83.9	83.6	0.2
	14歳	87.9	△ 0.1	88.1	86.6	1.3	※84.8	0.2	84.9	84.4	0.4
高等学校	15歳	89.8	△ 0.2	90.3	89.4	0.4	※85.8	0.4	85.4	85.4	0.4
	16歳	※91.3	0.4	91.3	90.0	1.3	※85.8	0.4	85.6	85.3	0.5
	17歳	91.2	△ 0.4	91.9	90.4	0.8	※85.7	0.0	85.8	85.2	0.5

(注) 1 は前年度より増加した値を示す。

(注) 2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

(2) 健康状態調査

ア 主な疾病・異常の被患率順位

平成 23 年度の定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても「むし歯（う歯）」の者（処置歯完了者を含む。以下同じ）が 1 位となっています。小学校ではこれに次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」，「鼻・副鼻腔疾患」となっており，中学校，高等学校では「鼻・副鼻腔疾患」がむし歯に続いています。（表 4）

表 4 主な疾病・異常の被患率順位

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯（う歯）	41.8	むし歯（う歯）	50.6	むし歯（う歯）	40.2	むし歯（う歯）	52.4
2	口腔咽喉頭疾患・異常	7.1	裸眼視力1.0未満の者	26.7	鼻・副鼻腔疾患	8.0	鼻・副鼻腔疾患	9.4
3	鼻・副鼻腔疾患	5.5	鼻・副鼻腔疾患	12.4	眼の疾病・異常	5.4	歯列・咬合	5.8
4	アトピー性皮膚炎	3.1	眼の疾病・異常	6.1	歯肉の状態	4.3	歯垢の状態	5.7
5	ぜん息	3.0	耳疾患	4.7	歯垢の状態	4.2	歯肉の状態	5.4
6	耳疾患	2.9	その他の疾病・異常(歯・口腔)	4.5	歯列・咬合	4.1	眼の疾病・異常	4.3
7	歯列・咬合	1.0	ぜん息	3.7	心電図異常	3.5	心電図異常	3.7
8	眼の疾病・異常	0.9	アトピー性皮膚炎	3.6	耳疾患	3.5	アトピー性皮膚炎	2.8
9	その他の疾病・異常(歯・口腔)	0.8	心電図異常	2.9	蛋白検出の者	3.1	蛋白検出の者	2.5
10	その他の皮膚疾患	0.7	歯列・咬合	2.6	アトピー性皮膚炎	2.6	耳疾患	1.6

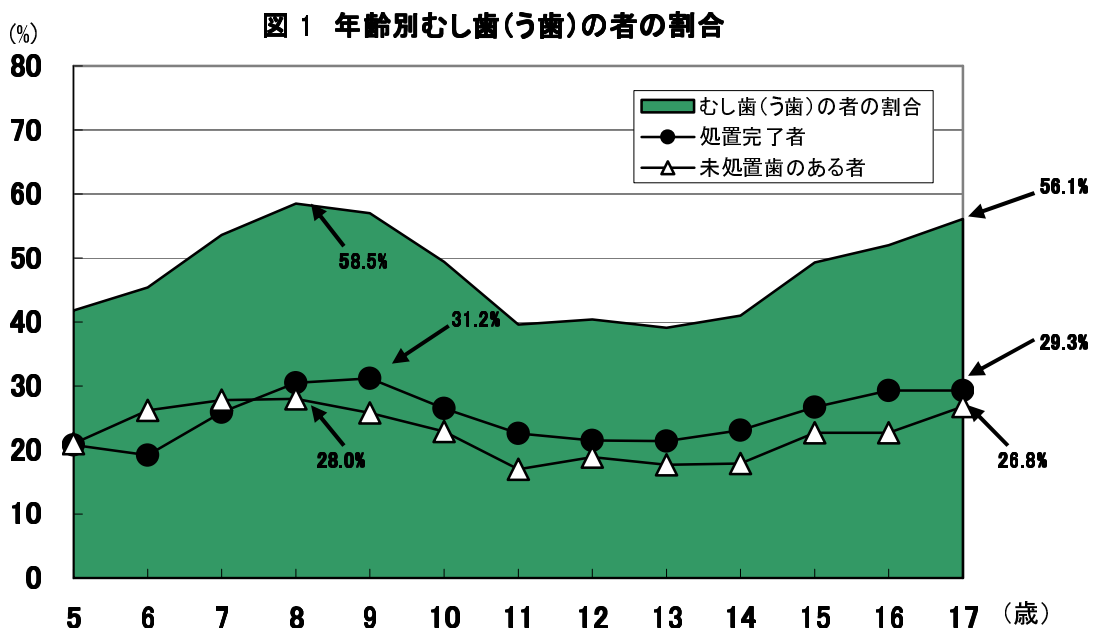
(注) 幼稚園，中学校，高等学校の「裸眼視力 1.0 未満の者」は，裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため公表されていない。

イ むし歯（う歯）の状況

(1) 年齢別の推移

平成 23 年度の「むし歯（う歯）」の者の割合は，幼稚園が 41.8%，小学校 50.6%，中学校 40.2%，高等学校 52.4%となっています。

「むし歯（う歯）」の者の割合を年齢別にみると 8 歳が 58.5%と最も高くなっています。また，8 歳以降では，処置完了者の割合が未処置歯のある者の割合を上回っています。（図 1）

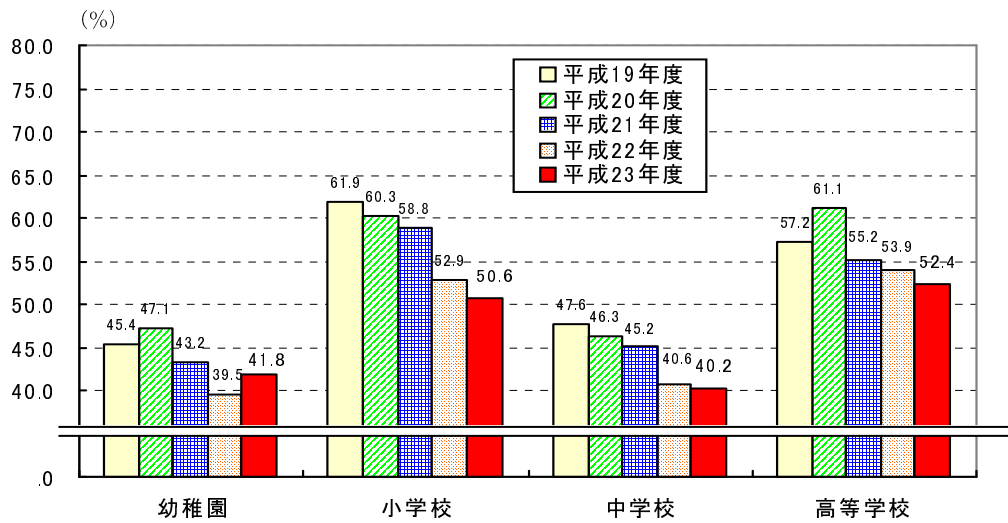


(2) 時系列の推移

平成23年度の「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園を除く学校段階で前年度を下回っています。

また、平成19年度以降の推移をみると、幼稚園を除く学校段階において低下傾向にあります。（図2）

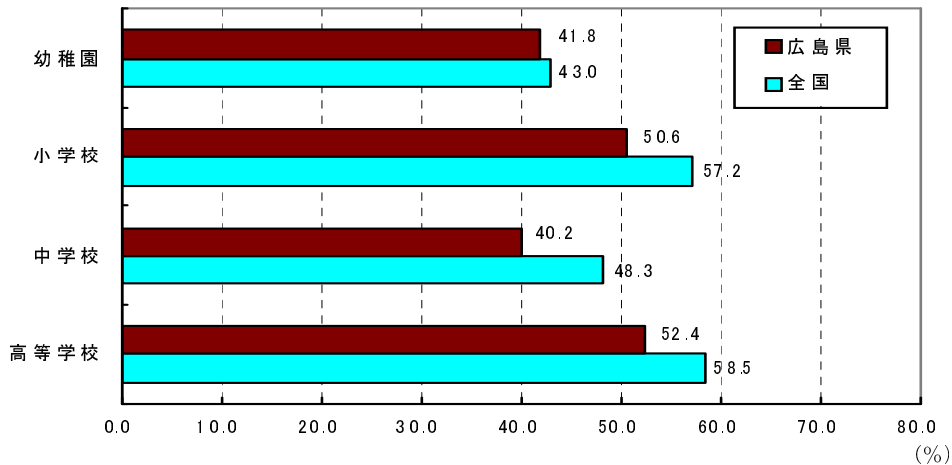
図2 むし歯（う歯）の者の割合の推移



(3) 全国との比較

「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても全国の割合を下回っており、特に中学校では8.1ポイントの差があります。（図3）

図3 むし歯（う歯）の者の割合（全国との比較）



問い合わせ先

広島県総務局統計課 消費経済・教育統計グループ

電話 082-513-2534 (ダイヤルイン)